

本書を推薦します

未来を創る「次の一手」

永世棋聖 米長邦雄

日々、棋譜を並べ、着眼と読み筋の研鑽を重ね、生き方を磨く。棋士はこうして局面を打開し、未来に通じる一手を繰り出す力を養う。本書は事業戦略に関する「棋譜」と未来を切り開く「次の一手」の研究解説書である。

未来に通ずる読み筋（戦略）を見いだすためには、得意技を通して世界を見ることを捨てなければならぬことがある。得意技に頼ることを捨てて、本当に追求すべき可能性に意識を集中させよ——これが本書からのメッセージである。

一点集中の戦略力

アサヒビール株式会社名誉顧問 中條高德

「志定まれば氣盛んなり」——これは吉田松陰の言葉であるが、古来からの兵法ものには「志」という文字がいちばん多く出てくる。そして「氣」というものがなければ、およそ物事はなしえない。しかしいかに志を立てて努力しても、成果につながらない状況に陥っている組織というものは世の中にたくさんある。ここに、方向と戦略の見極めということの重要性がある。

さて、切れ者の小川政信氏が「事業の局面打開」と「未来創造のための戦略」についての本を出すと同稿を送ってきた。無類の「本の虫」を任ずる私は原稿をすぐ読み切った。

本書では、ビール業界各社の戦略の分析も、重要なパートを占めている。二〇年間も真摯に経営コンサルティングをしてきた実績の持ち主だけに、内容がしつかりしており、味深ささえ感ずる。

経営には常にさまざまの人間模様が複雑に絡み合う。学者や研究者の最も理解しにくい部分であろう。だが本書が、当社の者でも忘れかけている「スーパードライ」や「Zビール」の解析にまで及んでいるのには驚かされた。誠実な小川氏には、時を籍してくれば、その真相

を語ることを約束する。この二銘柄がまったく消え失せた真相がはっきりするだろう。

また、キリンの敵失（エラー）の分析も鋭い。戦争では強敵を内部から崩す「インテリジェンス」（情報活動）を常に行う。ラガーを「風呂上がりのカンザマシのビール」と簡単に表現したのは、酒屋さん飲食店への発信であった。その二者がキリン内部に到達する至近距離の存在であったからである。

キリンの経営陣もビールは生で飲むことの正しさは理解していても、ラガーで圧倒的地位を築いている経営陣がいくら賢明でも容易に生の道はとれない。しかしキリンの若者たちには明日が長い。私の表現は、その「離間策」としてのインテリジェンスであった。このインテリジェンスは「ドライ戦争」によって決定的となった。「インテリジェンス」は、先勝によって力を増殖するものである。

本書は、さまざまな事例を通して、事業の現実を直視して、戦略の核となる一点を見極めることの大切さを説いている。さらに、見極めたならば、新しい戦略を打ち出すべきときにはためらうな、勇気をもって踏みだせ、と説く。実地では、局地戦の勝ちが勝ちを呼び、指揮官が理解できないようなプラス要素が翕然として集まるのが戦いの常。事業にもあてはまる。志を定めたら、あとは氣迫だ。

著者およびこの本の読者とともに、真相と、明日に向けての志を語り合う日を夢見ている。

夢と勇気と戦略力

ネミック・ラムダ株式会社創業経営者 斑目力曠

本書には、現実の経営課題をシステムティックに、かつスピーディに解決していく着眼点や、動き方やプロセスが描出されています。しかしそれ以上に、戦略の核を見極めたならば、勇気をもって夢の実現に乗り出そう、というメッセージが載せられていることを読者は読みとることができるとは思いません。

そもそも経営というものは、「夢を描く」ということと「現実に対処する」という所行の連続です。はじめに夢ありきです。戦略も不可欠ですが、夢すなわち初心と、向上心と、勇猛果敢な心も不可欠です。

私は、小川君がこれらのことを理解しているとかねがね感じていました。読者の皆様方も、このことには心のどこかで共鳴されるのではないのでしょうか。本書が一つのきっかけとなって、読者の皆様と関係する事業に局面打開や脱皮が生ずることを祈っています。